

# 人権なら

●ひと・まち・生き生き

2016年6月1日

第66号

NPO なら人権情報センター

## 推進協活動の役割を確認

### 田原本企業内人権教育推進協議会が総会

田原本町企業内人権教育推進協議会は5月20日、青垣生涯学習センターで2016年度総会を開催した

＝写真。  
NPOなら人権情報センターは同協議会の委託



を受けて、事業運営に携わっている。

谷野守弘・会長(奈良中央信用金庫専務理事)があいさつ。熊本県での震災に全国から支援の輪が広がっていることに触れ、人の生命や人権が大切にされる社会が求められている、と語った。

来ひんの森章浩・町長、松本荘司・町人権教育推進協議会会長、中筋英司・桜井職業安定所所長が紹介され、代表して森町長があいさつした。

### 新会長に八幡満久さんを選出

議事に移り、2015年度事業報告、収支決算報告、監査報告、2016年度事業計画、予算を承認。役員改選では、八幡満久さん(奈良トヨタ自動車株式会社代表取締役専務)を新会長に選出した。八幡新会長は人推協活動を推し進めていく決意を表明した。



このあと、山下力さんが「日本相撲協会と国際問題」と題して講演＝写真。協会が大相撲を「我が国の伝統」「神事」「国技」だと言っても、根拠は浅く、乏しい歴史しかない、などと話した。

## 18日に第16期総会

NPOなら人権情報センターは6月18日、奈良プラザホテルで第16期通常総会を開催する。

午前中は総会。午後は、映画『ある精肉店のはなし』を鑑賞する。

映画は大阪・貝塚市にある北出精肉店の家族を撮ったドキュメンタリー。7代にわたり牛を育て、と畜・精肉して小売りまでを手掛ける姿を追う。瀬瀬あや監督は「命と向き合い、働く美しさを感じてほしい」と話す。



\*\*\*\*\*

## 次田哲治さんが絵手紙展

「次田哲治(つぎたてつじ)の絵手紙展」が奈良市西御門町にある啓林堂書店奈良店で開かれた。4月29日にあった「第87回メーデー」の帰りに立ち寄り、楽しく鑑賞した。

次田さんは奈良市立春日中や天理市立北中の夜間学級の教員を務める。次田さんから素敵な「絵手紙」が届いたのがうれしくて、山下力さん、楠原くんを誘って展示会場を訪れた。



2階奥の一角に展示された作品約60点は、どれも見ているだけで楽しくなる。「ふむふむ」、さすがや！と感心させられた。県内にある夜間学級の紹介パネルも展示されていた。

## 下関・大藤園と交渉

### 虐待事件に対して3回目の抗議行動

ピープルファーストジャパンは4月13日、下関市大藤園の虐待事件に対する3回目の抗議行動を行った。抗議行動には、全国から40人の仲間が下関市に集まった。



この虐待事件は昨年5月、下関市にある障害者施設「大藤園」で職員が知的障害のある利用者に暴言を浴びせ、胸ぐらをつかんで体を揺さぶり、額を3回平手打ちする場面がテレビで放送され、発覚した。

ピープルファーストジャパンはこれまで大藤園と下関市に対して抗議行動をしてきた。市は昨年8月、大藤園に対して行政処分をしたが、「1年間は新規の利用者を受け入れてはいけない」という軽いものだった。

大藤園は行政処分からどう変わったのか。虐待をってしまったことを本当に反省しているのか。こうしたことを自分たちの目で確認するため、この日の行動となった。午前中、施設内の見学、下関市に申し入れ書提出、下関市役所前でのビラまき、を3グループに分かれて展開した。

### 下関市障害福祉課に申し入れ書を提出

施設内の見学では、各作業の部屋は透明なガラスになって見通しが良くなっていた。テレビで放送された時とは、違っていた。少しは片付けられていた。監視カメラの設置で虐待が無くなるのか、と訴えてきたが、取り外されてはいなかった。監視カメラは安心カメラと名称を変えていた。事務所に置かれたモニターは必要ときだけスイッチを入れて見るようにしている、とのことだった。

下関市に対する申し入れ書の提出では、障害福祉課に3項目を申し入れた。①大藤園の改善状況を把握し、必要な改善指導を引き続き行うこと②大藤園の

事件の教訓と、今後のあり方について見解をまとめていくこと③市全域において障害者虐待が起きないように市内すべての事業所に伝えていくこと、を求めた。

市役所前でのビラまきでは、「大藤園の虐待事件は、まだ解決していない」「下関市の福祉課は、ちゃんと責任を果たせ」と、ビラを配布し、声を上げた。

### 大藤園施設長は虐待の事実を未だ認めず

午後には、大藤園の佐藤施設長と交渉。「虐待をした職員は本当に反省しているのか」「障害のある当事者の声をどうやって聞こうとしているのか」「重度の利用者への支援はどうやってするのか」の3点を中心に追及した。

紙の束で利用者を叩いていた支援員と、ハサミを持って「ズボッ」と言っていた支援員は、それぞれ停職処分を受けたが、その後、復帰している。施設長は「誰が見ても恥ずかしくない言動をしている。反省している」と言い、「放送された映像は編集されている。殺すぞとは言っていない。はさみを持っているが、利用者が職員に対して悪口を言ったことに対して注意をしているときの延長。本人は違う、と言っている」などと述べ、未だに虐待の事実を認めようとはしなかった。



これに対して、なかまたちは「まだまだウミは出し切れていない。出し切らないと施設は変わらない」「被害を受けた人の声をもっと聞かないといけない」「まずは、職員に虐待を認めさせること」「虐待を認めていない施設に改善の見込みはありません」「ピープルファーストジャパンは、まだまだ戦い続けます」と、きびしく追及した。

大藤園との交渉では、虐待を認めないうえに、開き直りの言葉が出てきたことで、ピープルファーストのなかまには怒りがあふれ出していた。(ピープルファーストジャパン全国事務局 支援者・吉田裕子)

## 岡山・長島愛生園を訪問

### 国による差別迫害の実態を展示する歴史館

参加者11人は4月9日、中尾伸治・愛生園自治会長の話(前号で報告記事)のあと、ボランティアガイドの説明を受けながら歴史館と園内の史跡を巡った。歴史館は本館として使用されている。園の歴史や療養所の人々の生活など、様々な資料を展示。国による過酷な差別迫害の実態も包み隠さず展示する。歴史館に続いて、収容栈橋、収容所(回春寮)、監房、納骨堂を見て回った。



### 園内の収容所、監房、納骨堂などを見学

収容所は連れてこられた人が最初に入る。ここで所持品はすべて取り上げられ、ホルマリンで「消毒」され、クレゾールの消毒風呂に入れられたという。

監房は療養所の秩序を乱したとされた人々を監禁。コンクリート堀の中には2畳ほどの小部屋がある。ここに閉じ込められると1日2食に制限され、治療も受けられなかったという。



納骨堂は収容者が死んでも島からは出られないという国の意思が示された建物。3500体余りが収められている。予防法が廃止された後も、遺骨を引き取る家族が少なく、ここに納骨されているという。

今回、‘架け橋 長島一奈良を結ぶ会’の稲葉耕一事務局長に様々な支援を受けた。中尾さんには、休館日にもかかわらず時間を割いていただいた。感謝。

なお、今年の「架け橋美術展」は11月ごろ、明日香村である。連絡先は「結ぶ会」:0743-92-0919。

## 天理をフィールドワーク

### 村と村とのつながりが生まれた地域

「学びの会」(天理・村田正親代表)が5月21日、天理をフィールドワーク。コースは近鉄天理駅-石上神宮-内山永久寺跡-天理市観光農園-布留(ふる)・杣之内(そまのうち)共同墓地-都祁山口(つげやまぐち)



神社-西山古墳-善福寺-天理参考館。井岡康時さん(県同和問題関係史料センター元所長)が案内した。

この地域は「石上神宮への信仰や布留川の利用によって、中世から布留郷とよばれる村と村のつながりが生まれた」。石上神宮は桜井の大神神社(おおみわ)と同じく、本殿をもたず、「禁足地」を祭祀の対象としていて、古い信仰の形態をとどめる。

古代には、物部氏が祭祀を担当。祭神が武器の神(平国之剣・くにむけのつるぎ)であることから、武器庫が置かれていたとみられる。江戸時代には、農業神として「布留社」と呼ばれ、村々の信仰を集めた。

### 廃仏毀釈で廃寺になった内山永久寺

内山永久寺は平安時代に鳥羽天皇の勅願(ちよくがん)により、藤原頼実により創建。真言堂、多宝塔、本堂が建立され、以降、伽藍の整備が進み、僧坊も増加。戦国時代末期には56の坊を数えた。明治初年の「廃仏毀釈(はいぶつきしゃく)」で廃寺となったが、興福寺・東大寺・法隆寺に次ぐ大寺であったという。

里山の高台にあって、奈良盆地が一望できる天理観光農園での昼食後、西乗鞍古墳・西山古墳・善福寺墓地を訪れた。この地域は「穢多村」「三昧聖村」や神子村なども周辺に含み、「忌避や差別」とともに、地域交流もあったとされる。

最後は、「天理参考館」に立ち寄った。

## 沖縄平和行進・シンポ

### 韓国・済州・台湾から沖縄に活動家が集結

沖縄平和行進と「第9回東アジア米軍基地問題(環境・平和)国際シンポジウム」に古川沙樹さんと参加した。「沖縄民衆連帯」の豊見山雅裕、高橋年男さんらによる20年来の取り組みで実現してき



た。韓国・平澤(ピョンテク)、済州(チェジュ)、台湾からの参加者と5月11日から16日まで行動を共にした。

12日。午前中は辺野古ゲート前で座り込み・抗議行動に合流＝写真。嘉手納-普天間那覇-第39回5・15平和行進全国結団式(700人)に参加した。

13日。平和行進出発式(東コース・辺野古キャンプシュアブゲート前)に参加。そのあと、オスプレイのヘリパッド建設に反対し座り込みが闘われている高江へ。

### 国際シンポ「海を越えて手をつなごう」

14日。国際シンポ「海を越えて手をつなごうー武力で平和はつukれない！」が那覇市内の県立博物館美術館であった＝写真。120人が参加した。「沖縄・韓

国民衆連帯」の豊見山さんが開会あいさつ。佐藤学・沖縄国際大学



教授が「戦争法制・戦争の現実的危機」をテーマに基調講演。続いて、「開かれた軍隊のための市民連帯」韓国のパク・ソクジンさん、DVD「安保法制と自衛隊」の上映も含めて神奈川の本元茂夫さん、「平澤平和センター」のカン・ミさん、基地村女性人権問題に取り組む「トレバン(シェルター)」のキム・テジョンさんが、それぞれ報告した。

午後は、『圧殺の海 第2章 辺野古』のトピックス映

像と、韓国の基地平和ネットが作成した映像の紹介。「Xバンドレーダー基地反対近畿・京都連絡会」の大湾宗則さんが5月2日の16カ所強制捜査を報告。権力の弾圧を弾劾した。中城村議の新垣徳正さんはオール沖縄の辺野古阻止の取り組みを報告。三線の「二見情話」に心が揺れた。



### 「勝つ方法はあきらめないことだ！」

最後に、済州カンジョン村のチッキミ(守り人と呼ばれる支援メンバー)、チェ・ヘヨンさんが発言＝写真。「10年におよぶ戦いで村の住民と活動家38人が拘束。約1300人が連行され、裁判にかけられた」「全国の闘争現場と国際連帯を通じてわかちあった経験と知恵から学んだ事実は、勝つ方法はあきらめないことだ！」と発言。会場は静まり返った。続いて、「アピール」が読み上げられると、再び感動に包まれた。

15日。平和行進の最終日。東コースは末吉公園ー県民大会の会場(新都心公園)へ。県民大会(写真)

では、平和センター議長・実行委員長の山城博治さんが開会あいさつ。海外



ゲストとして海軍基地反対闘争を続ける韓国済州道のカンジョン村婦人会長のカン・ムンシンさんが発言。韓国からの訪問団も演壇の前で横断幕を掲げ、「ともに集い、ともに歩き、ともに叫ぼう。沖縄の平和！ カンジョンの平和！」と、連帯を力強くアピールした。

### ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター

〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail:info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/